

農林水産統計だより

関東農政局 統計部

2017.10 vol. 6

〈お知らせ〉「6次産業化総合調査」を実施します

旬：関東のサバ

農林水産統計 調査に関するお知らせ

統計トピックス

平成29年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況(関東農政局管内)について

平成28年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率(関東農政局管内)について

農林水産統計 公表に関するお知らせ

〈お知らせ〉「6次産業化総合調査」を実施します

実施期間：平成29年10月から12月まで

農林水産省では、6次産業化に関する各種支援施策の推進に必要な資料を整備することを目的として、毎年度、農水産物の加工・直売、観光農園、農家・漁家民宿及びレストランの6次産業化に取り組まれている農業者、漁業者等の方々を対象に、「6次産業化総合調査」を実施しています。

調査は、農林水産省又は農林水産省が委託した民間事業者((株)インテージリサーチ)が、調査対象者に調査票を郵送で配布・回収する方法等により実施されますので、御理解、御協力の程よろしくお願いいたします。

詳細については農林水産省ホームページを御覧ください。

【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/syohi/rokuji/index.html>】

旬 関東のサバ

日本近海で水揚げされるサバはマサバとゴマサバであり、ゴマサバは春から初夏が旬といわれていますが、マサバは、産卵を終えた魚体に脂が戻る秋からが、旬といわれ「秋サバ」と呼ばれています。

平成28年の全国のさば類の漁獲量は48万9,100tで、関東農政局管内では、茨城県が13万8,800tで全国1位となっています。この他、千葉県が4万1,200t、静岡県が3万9,200t、神奈川県が2,300tの順となっており、これら4県の合計は、22万1,500tで全国の約45%を占めています。

(農林水産省統計部「平成28年漁業・養殖業生産統計」より)



農林水産統計 調査に関するお知らせ

現在実施中及び今後行われる主な調査をお知らせします。

調査は、往復郵送調査（オンライン調査）、調査員調査、現地調査（職員や統計調査員等が作物の作付面積、生育状況等の現地確認、調査対象である農家等のほ場で実測調査及び面接聞き取り）の方法により行います。

調査に伺う職員、統計調査員等は必ず身分証明書又は調査員証を携行し、地域の皆様にご不審等を招くことのないよう注意を払っていますが、お見かけの際はどうぞ遠慮なく声を掛けていただき、地域の情報をお聞かせいただければ幸いです。

調査名	実施期間	調査対象	調査方法	調査の概要
農作物の作付面積、作柄等の把握	年間随時	農地	専門調査員が農地を確認	調査区内（耕地）に作付けされている農作物名及びその面積、作柄及び被害発生状況の把握
収穫量調査（果樹、陸稲、そば等）	年間随時	農家及び集出荷団体等	往復郵送調査（集出荷団体等に対してはオンライン調査が可能）	作物ごとの作付面積、収穫量（集荷量又は出荷量）及び作柄状況等を把握
水稲収穫量調査	10月（収穫期）まで	農家 農地	職員、専門調査員が一部のほ場での実測と聞き取り	水稲の収穫量を標本実測調査により把握
作況特定筆	各作物の収穫期	農家 農地	職員、専門調査員が一部のほ場での実測と聞き取り	大豆及びそばの収穫量を実測調査により把握
共済減収調査	各作物の収穫期	農家 農地	職員、専門調査員が一部のほ場での実測と聞き取り	水稲、大豆及び果樹類の気象被害等による減収量を標本実測調査により把握
6次産業化総合調査	10月～12月	農業又は漁業生産関連事業を営んでいる農家、農協、漁家及び漁協等	農林水産省が委託した民間業者による往復郵送調査（オンライン調査が可能） 一定規模以上は、農林水産省又は農政局（都県拠点）による往復郵送調査（オンライン調査が可能）	生産関連事業の概要、販売金額、従事者、営業（稼働）日数等を把握
野生鳥獣資源利用実態調査	9月～10月	野生鳥獣の処理加工施設等	農林水産省が委託した民間業者による往復郵送調査（オンライン調査が可能）	野生鳥獣の食肉処理施設の処理実態を把握
漁業就業動向調査	11月	個人経営体（漁家）及び団体経営体（会社等）	調査員調査又は往復郵送調査（オンライン調査が可能）	個人経営体（漁家）の世帯員の就業状況、団体経営体（会社等）の雇用状況等を把握

関東農政局ホームページ「統計調査への御協力のお願い」にも掲載しています。

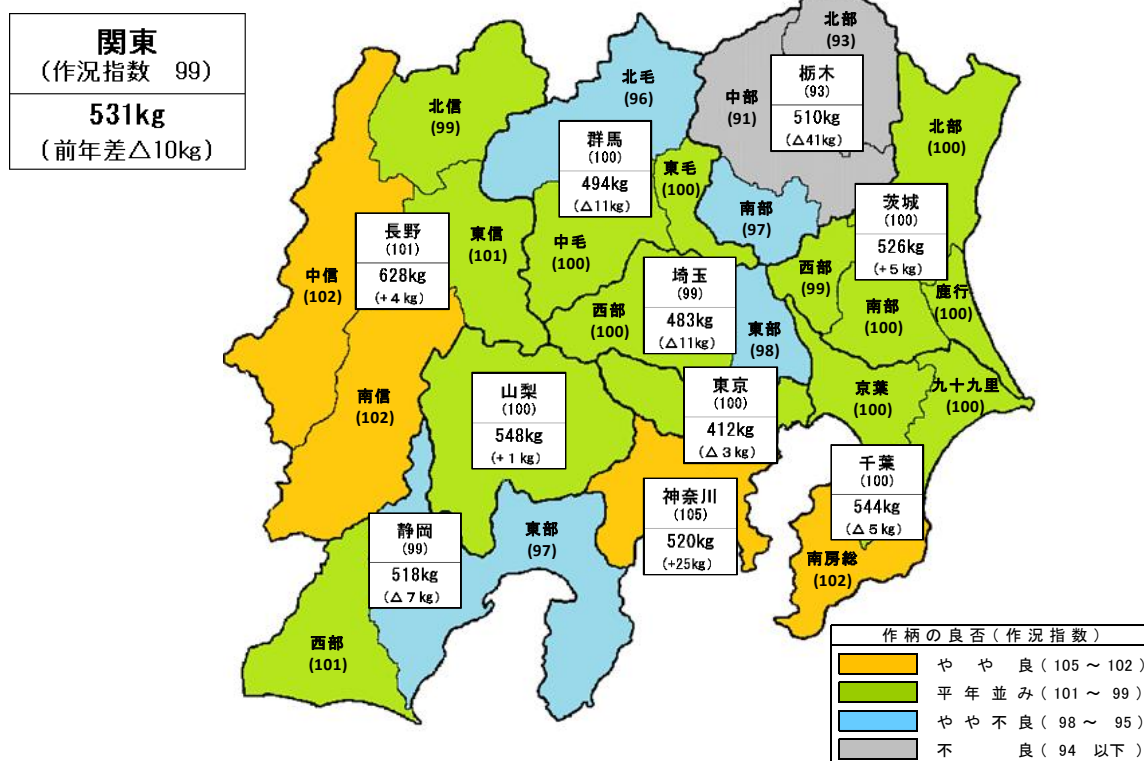
【http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/kyouryokuonegai/index.html】

(1) 平成 29 年産水稻の作付面積及び 9 月 15 日現在における作柄概況(関東農政局管内)について

- 1 関東農政局管内における平成 29 年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は 31 万 8,000ha で、うち主食用作付見込面積は 27 万 3,000ha が見込まれる。
- 2 9 月 15 日現在における水稻の 10 a 当たり予想収量は 531kg で、前年産に比べ 10kg の減少が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの関東の作況指数は 99 となる見込み。
- 3 主食用作付見込面積に 10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は 145 万 t で、前年産に比べ 4 万 t の減少が見込まれる。

関東農政局管内の 10 a 当たり予想収量及び作況指数(9 月 15 日現在)

【作況指数は農家等が使用しているふるい目幅(1.80 mm)】



- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積(平成 29 年 9 月 15 日現在)を除いた面積(見込み)である。
- 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。
なお、作況指数は関東農政局管内で過去 5 か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでのふるいの目幅(1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

詳細については、関東農政局ホームページの「統計情報」から御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/ 】

(2) 平成 28 年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率(関東農政局管内)について

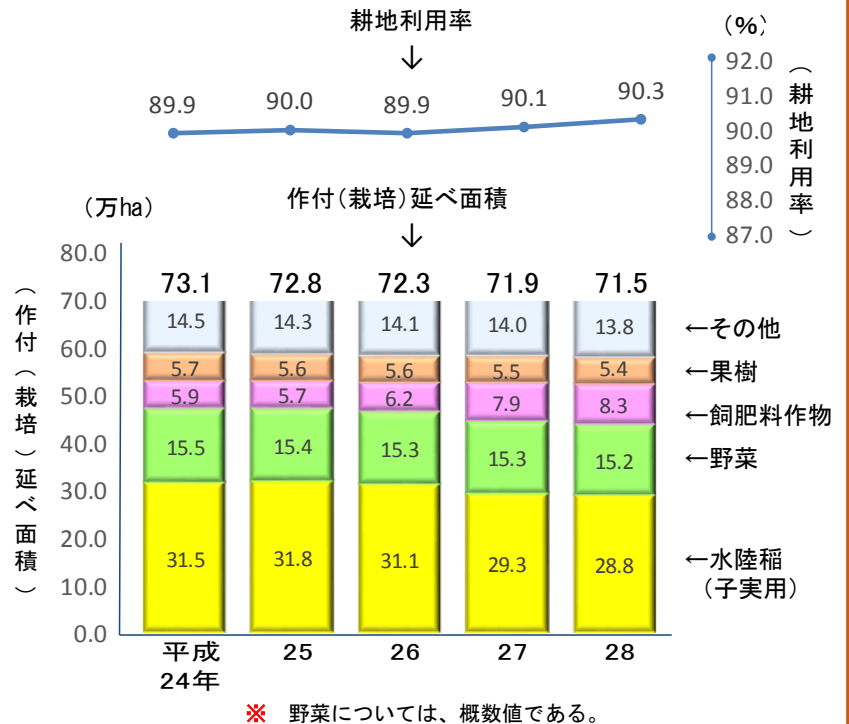
関東農政局管内における平成 28 年農作物作付(栽培)延べ面積は、71 万 5,300 ha で、飼肥料作物等の作付(栽培)面積が増加したものの、水陸稲(子実用)等の作付(栽培)面積が減少したことから、前年に比べ 3,600 ha (0.5%) 減少しました。

また、耕地利用率は 90.3% となり、前年に比べ 0.2 ポイント上昇しました。

詳細については、農林水産省ホームページの「統計情報」から御覧いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>】

平成 28 年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率の推移
(関東農政局管内)



農林水産統計 公表に関するお知らせ

大臣官房統計部公表予定 (10月~12月)

公表時に農林水産省ホームページの「統計情報」へ掲載します。

【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>】

公表予定	資 料 名
10月	平成29年果樹及び茶栽培面積(7月15日現在) 農業経営統計調査 平成28年産米生産費 平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい(乾燥子実)の作付面積 平成29年耕地面積(7月15日現在) 平成29年産水稲の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在) 食育活動及び国産農林水産物・食品に関する意識・意向調査
11月	農業経営統計調査 平成28年個別経営の営農類型別経営統計 農業経営統計調査 平成28年個別経営の経営形態別経営統計 農業経営統計調査 平成28年組織経営の営農類型別経営統計(併載:経営形態別経営統計) 農業経営統計調査 平成28年度畜産物生産費 生産者の米穀在庫等調査(平成29年6月末) 平成29年産びわ、おうとう、うめの結果樹面積、収穫量及び出荷量 平成29年産4麦の収穫量 女性農業者の活躍推進と農業女子プロジェクト等に関する意識・意向調査
12月	平成28年農業総産出額及び生産農業所得 平成29年産水陸稲の収穫量 平成29年産春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量(都府県) 平成29年産なたね(子実用)の作付面積及び収穫量 野生鳥獣資源利用実態調査(平成28年度)

【問合せ先】

〈農林水産統計全般について〉 農林水産省関東農政局統計部統計企画課 TEL 048-740-0058

埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 (さいたま新都心合同庁舎2号館 6F)